

「三陸鉄道全線復旧・被災地支援」

ミニSL運転会

2012年4月21日から25日（4泊5日）

<運転会会場>

4月22日（日） 宮古市(宮古小学校グラウンド)

4月23日（月） 大船渡市(シーパル駐車場)

4月24日（火） 釜石市(平田小学校校庭)

よみがえれ三陸鉄道!ミニSL運転被災地激励実行委員会

被災地支援のミニSL運転会への協力御礼

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、これにより三陸海岸を中心に最大40メートルの大津波が押し寄せ、多くの市町村が被災し、死者・行方不明者は約2万人を数え、被災者は約40万人に及んでいます。

震災から1年が経過しましたが、被災地の生活インフラの早期復旧、特に寸断された三陸鉄道の全線完全復旧は早急な課題です。

このような状況の中、三陸復興・三陸鉄道の全線復旧をめざし、被災地のみなさんを激励するミニSL運転会の開催を計画し、静岡から機材・スタッフを含めトラック・ワゴン車など3台、7名の仲間で往復1500km、4泊5日の日程で行いました。

4月22日は宮古市立宮古小学校、23日は大船渡市シーパル駐車場、24日は釜石市立平田小学校を会場にC57型蒸気機関車の汽笛が三陸復興を期して鳴り響き、多くの来場者のみなさんに乗車していただけたことに成功裡に終了することができました。これも三陸鉄道のみなさんの協力をはじめ、現地の関係団体のみなさんの支援の賜物であり、カンパを寄せられた静岡をはじめとする皆さんの協力のおかげです。今後も三陸復興・三陸鉄道の早期全線復興をめざして静岡の地から共に支援してまいります。

よみがえれ三陸鉄道!ミニSL運転被災地激励実行委員会

代表 **室伏雄二**

今回訪ねた 宮古・釜石・大船渡

沼津から東名高速道路・東北自動車道を
経由し盛岡へ、106号線（JR山田線沿）
で宮古。45号線（JR山田線沿）を南下
し釜石（ここは通過）さらに、45号線（
南リアス線沿）で大船渡へ、また、45号
線（南リアス線沿）を北上し釜石に戻る。
運転会を終わり、再び45号線で陸前高田
気仙沼を經由して沼津に帰着した。



現在も、宮古～釜石～大船渡の間
鉄道は運休中

震災後(2011年4月4日)の三陸鉄道社長のメッセージ

三陸鉄道社長からのメッセージ「三陸鉄道の復旧に向けて」

2011年4月4日 月曜日

三陸鉄道の復旧に向けて

このたびの震災に際しましては、多くの皆様から御支援・激励をいただき、ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

今回の震災により三陸沿岸地域は、甚大な被害を受けました。多くの方々が家族を、財産を、そして勤め先など生活の基盤を失いました。当社も各地で線路や橋梁、駅などが甚大な被害を受けました。幸いにして、アテンダントを含め社員と震災の際に乗車中のお客様は無事でした。(家族や住居を失った社員はいます。)

私たちは、震災直後から今後どのように対応するか協議しました。多くの方が家や車を失い、買い物や病院にも行けない状況を目の当たりにし、少しでもお役に立ちたかったので、結論は「とにかく復旧できることから列車を動かそう」でした。

3月16日に久慈～陸中野田間で、3月20日には宮古～田老間で、3月29日には田老～小本間で運転を再開しました。被災したお客様からの「ありがとう」の言葉が耳に残りました。不眠不休で復旧作業に当たった社員にも笑顔がありました。

しかし、自力で復旧できるのはここまでです。現在の運転再開区間は全線の1/3、輸送力は震災前の1/10にすぎません。残りの区間の復旧は、国などの支援がないとできません。全面復旧には、莫大な経費と長い時間が必要です。

私たちは、三陸鉄道の復旧が三陸沿岸地域の明日への希望であることを信じています。そのため気力を振り絞り、社員一丸となって再建に向け取り組んでまいります。

どうぞこれからも変わらぬご理解、ご支援をお願いします。

平成23年4月

三陸鉄道株式会社 社長 望月正彦

転載の許可は頂きました。



北リアス線

普代・田野畑間運休

- 久慈駅 (くじ)
- 陸中宇部駅 (りくちゅううべ)
- 陸中野田駅 (りくちゅうのだ)
- 野田玉川駅 (のだたまがわ)
- 堀内駅 (ほりない)
- 白井海岸駅 (しらいかいがん)
- 普代駅 (ふだい)
- 田野畑駅 (たのはた)
- 島越駅 (しまのこし)
- 小本駅 (おもと)
- 摂待駅 (せったい)
- 田老駅 (たろう)
- 佐羽根駅 (さばね)
- 一の渡駅 (いちのわたり)
- 山口団地駅 (やまぐちだんち)
- 宮古駅 (みやこ)



南リアス線

全線運休

- 釜石駅 (かまいし)
- 平田駅 (へいた)
- 唐丹駅 (とうに)
- 吉浜駅 (よしはま)
- 三陸駅 (さんりく)
- 甫嶺駅 (ほれい)
- 恋し浜駅 (こいしはま)
- 綾里駅 (りょうり)
- 陸前赤崎駅 (りくぜんあかさき)
- 盛駅 (さかり)



ミニS L運転会を取り組むにあたって

植田 誠

沼津・三島地域の国鉄やJ RのOB、J Rの現職のみなさんが、趣味を兼ねて、富士市の新通り町公園でミニS L運転会を毎月第2日曜日に開催しています。今では、この日を待ちわびたかのように地域の皆さんが集まって乗車し楽しんでます。

一方、3・11 東日本大震災では三陸鉄道・J R大船渡線、気仙沼線などが壊滅的な被害を受け、早期復旧のためにも、何か力になれることができないか議論をしていました。

このような状況の中、ミニS L運転会のメンバー達から、被災地支援と三陸鉄道をはじめとする鉄道の早期復旧の支援として、ミニS Lの運転会を三陸地方でできないものかと提案が上がってきました。

相談を持ちかけられ、国労静岡地方本部が事務局を担当し、実行委員会（準備会）を立ち上げ、賛同団体等を募集しながら、宣伝（カンパ）行動、現地下見（調整）、スタッフの募集などを行い、開催日、場所（レールが引ける・充電用電源や水道があるなどの条件も必要）の選定、現地への要請・宣伝など合計3回の訪問も行い調整を行ってきました。

カンパ活動においては、静岡県労働組合評議会の幹事会、国労静岡地本の委員会などで協力をお願いをおこない、富士市の新通り町公園での「ミニS L運転会」でも訴え、国労本部、国労東海本部、静岡支部、東部支部、浜松支部からも多額のご支援を頂きました。さらには、この企画に賛同頂いた山大園さま、革新自動車さまをはじめ各団体、個人から心温まる支援も頂きました。また、現地スタッフとしてご協力いただいた国労盛岡地方本部さまからも支援を頂き、心から厚く御礼申し上げます。

皆様のご支援・ご協力により4月25日に無事に静岡へ帰着いたしました。参加者一同、疲れましたが充実した運転会であったと感激をしています。さまざまな体験（被災地を目の当たりにしたこと、運転会での地元のみなさんとの交流など）してきました。

実行委員会では、この取り組みの成果・教訓・反省などを「よみがえれ三陸鉄道！被災地激励ミニS L運転会」報告集として作成することを確認してきました。

「公共交通を守る」静岡の取り組み

国鉄労働組合静岡地方本部は、1987年（昭和62年）4月1日のJR発足後の不当配転などの攻撃と闘い、JR不採用問題の解決に向けて運動を積み重ねてきました。あわせて、国鉄からJRに移行したもとの、全国につながる鉄道網を維持し、地方の鉄道やバス（国鉄）を守る運動を取り組んできた、「国鉄闘争を支援する東海の会」（東海4県）の静岡県組織「よみがえれ国鉄静岡県民の会」に参画してきました。

「よみがえれ国鉄静岡県民の会」の取り組みとしては、JR不採用問題も終結をしたなか、近年は、東海地区で「国鉄闘争を支援する東海の会」や他団体とも協力をしながら、「JR利用者

アンケート」を取り組み、鉄道の安全とサービスの向上をめざしています。このアンケートに寄せられた意見や要望を基に、国土交通省中部運輸局・静岡運輸支局や静岡県交通政策室への要請も毎年行っています。

昨年は、JR貨物が今春（2012年3月17日）のダイヤ改正から、富士市を走る岳南鉄道（吉原～岳南江尾）の貨物輸送から一方的に撤退することを表明しました。貨物収入が絶たれる中、旅客営業への影響（旅客営業のみでは経営が苦しいと経営陣も見解を出しました）が懸念された同鉄道を、公共交通として、地域の活性化のためにも鉄道として残すことなどを訴え、貨物輸送の継続を求める取り組みも行ってきました。（結果的には貨物輸送は休止されました）

ヘットマークは手作りです！



今回、三陸で走ったミニSLと電気機関車

現地訪問（受け入れ要請、開催場所の選定、開催時期の調整など）

【1回目】3月3日（参加者：室伏・市川）

3月2日	静岡・三島 <u>こだま</u> 品川 <u>夜行バス</u> 19:19・19:50 20:39/21:40
3月3日	<u>宮古（レンタカー）宮古市役所・宮古市教育委員会・自治労宮古市職員組合・三陸鉄道広報課・大船渡市役所・釜石市役所</u> 新花巻 <u>やまびこ</u> 7:30 18:11 <u>64 東京 <u>こだま</u> 三島・静岡</u> 21:12・21:43 22:41 23:02

3月2日静岡、三島から新幹線で品川へ、品川駅21時40分発の夜行バスを利用し翌朝7時30分ころ宮古駅前に到着。

レンタカーにて宮古市役所・宮古市教育委員会・自治労宮古市職員労組・三陸鉄道広報課などを訪ね、さらに、大船渡市役所、釜石市役所を訪問。趣旨の説明、受け入れ先の検討などを行う。

後日、電話等で調整を行うことを確認し、新花巻から新幹線で三島、静岡へ帰着した。

その後、4月22日宮古小学校・4月24日釜石平田小学校の2会場が決定した。

【2回目】3月19日（参加者：室伏・市川・植田）

3月18日	静岡・三島 <u>こだま</u> 東京 <u>夜行バス</u> 20:48・21:20 22:16/23:10
3月19日	<u>夜行バス 盛岡…国労盛岡地本…盛岡 <u>はやて108</u> 一ノ関（レンタカー）</u> 6:30 9:25 10:06 <u>（気仙沼・陸前高田・大船渡）盛駅ふれあい待合室・三陸鉄道南リアス線運行部</u> <u>一ノ関 <u>はやて112</u> 東京 <u>こだま</u> 三島・静岡</u> 18:06 20:24・20:56 21:51 21:30 22:27

4月23日の予定が埋まらない（遠路向かうので1日あけるのももったいない）ので、再度会場探しに要請に向かう事とした。

3月18日、静岡、三島から新幹線で東京へ、東京駅23時10分発の夜行バスを利用し翌朝6時30分ころ盛岡に到着。

国労盛岡地方本部に現地スタッフとして協力の要請に伺い、新幹線で一ノ関へ、レンタカーにて気仙沼市街地、鹿折唐桑駅、陸前高田市街地、高田松原（奇跡の一本松）を經由して盛へ、マスコミでも取り上げられた三陸鉄道盛駅ふれあい待合室を訪ねた。マネージャー中村仁様に会い趣旨を伝えると、三陸鉄道南リアス線運行部に同伴していただく事ができ、大船渡での会場（シーパル駐車場）の紹介と宿泊場所の手配までお世話になりました。

これで、3会場の確保ができました。
一ノ関から新幹線で三島、静岡に帰着した。



駅は倒壊、駅前には津波で運ばれた船が1年経過しても放置されている。



奇跡の一本松：陸前高田市



車両は津波による塩害で走行は不能になった。

【3回目】4月5日（参加者：市川・植田）

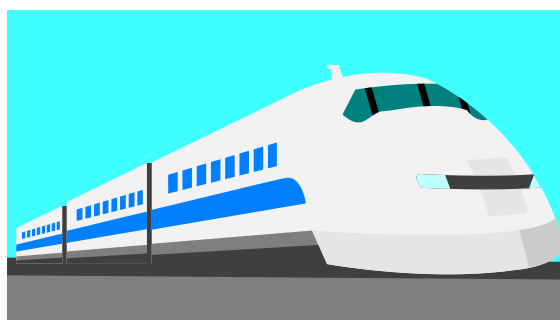
4月4日	静岡・三島 <u>こだま</u> 上野 夜行バス 20:48・21:20 22:16/23:10
4月5日	夜行バス <u>釜石</u> (レンタカー) <u>ふれあい待合室・三陸鉄道南リアス線運行部</u> 6:50 <u>釜石市役所・平田小学校・宮古市役所・自治労宮古市職員労組・宮古小学校</u> <u>盛岡</u> はやて 36 <u>東京</u> <u>こだま</u> <u>三島・静岡</u> 18:07 20:36・20:56 21:51 21:30 22:27

決定した3会場に最終調整のため、チラシを持ち帰った。

4月4日、静岡、三島から新幹線で東京へ、上野駅 22時20分発の夜行バスを利用し翌朝6時50分ころ釜石に到着。

レンタカーにて大船渡に、三陸鉄道盛駅ふれあい待合室・三陸鉄道南リアス線運行部、釜石では、釜石市役所・会場としてお借りする平田小学校（校長）、宮古は、宮古市役所・自治労宮古市職員労組・会場としてお借りする宮古小学校（校長）などにチラシを持ち最後のお願いと調整を行ってきた。長距離の移動になり昼食も摂れなかったことが印象に残る。宮古から盛岡に向かう国道106号線の峠に差し掛かった時、前が見えなくなるほどの雪が降った。春はまだ遠いのか？盛岡から新幹線で三島、静岡に帰着した。

帰路の新幹線の中で飲んだビールが心なしかうまかった。



付：夜行バス初体験で、決して乗り心地は良いとは言えなかった。バスターミナルでの見送りの姿を見ると思いは様々であろうが何か空しさが漂う。震災の傷をもった人もいるのだろうか。ふるさとがどのように映っているのだろうか。何か明日の朝になると楽しいことがあるのだろうか。しかし、なんて声を掛ければいいのかわからない。でも心の中で頑張ろう。そして、ミニSL運転会を成功させよう。

宣伝用チラシ

2012. 4. 22

ミニSL乗車会のお知らせ

静岡 ← 宮古

三鉄物品販売・三鉄くん握手会もあるよ!

2012年
4月22日(日)
場所: 宮古小学校
10時~14時
運賃: 無料です!

みんな あつまれ!
静岡からミニSLが来るヨ!




静岡から宮古におじゃまする車両
(変更する場合があります)

○7型蒸気機関車1両、電気機関車2両、客車6両

私たちは、静岡で、公共交通の充実を求め取り組んでいる団体と、旧国鉄OBと、JRで働く現職でミニSL運転を行っている「ミニSL運転クラブ」などで実行委員会を構成し、今回の企画を実施した。東北地方の太平洋沿岸部の鉄道の被害の大きなにも鑑み、公共交通と国民の交通権を守る重要性が増す中、鉄道に関わる者としては、三鉄鉄道をはじめとした、鉄道の早期復旧と生活の再建は同時に進める必要を感じています。
このたび、静岡からミニSLなどを持ち、宮古市におじゃまいたします。わざわざですが大人10人と料金を届けたいと思っております。ごどもちを少し多くの皆さまに楽しんでいただければ幸いです。

主催:「よみがえれ三陸鉄道被災地救助 ミニSL運転実行委員会」
お問合せ: 静岡市興区黒金町55 国光静岡地本 電話 (054) 285-4426
宮古市・三陸鉄道株式会社の特典を頂いております。

2012. 4. 23

ミニSL乗車会のお知らせ

静岡 ← 大船渡

2012年
4月23日(月)
場所: シーパル駐車場
10時~15時
運賃: 無料です!

みんな あつまれ!
静岡からミニSLが来るヨ!




静岡から大船渡におじゃまする車両
(変更する場合があります)

○7型蒸気機関車1両、電気機関車2両、客車6両

私たちは、静岡で、公共交通の充実を求め取り組んでいる団体と、旧国鉄OBと、JRで働く現職でミニSL運転を行っている「ミニSL運転クラブ」などで実行委員会を構成し、今回の企画を実施した。東北地方の太平洋沿岸部の鉄道の被害の大きなにも鑑み、公共交通と国民の交通権を守る重要性が増す中、鉄道に関わる者としては、三鉄鉄道をはじめとした、鉄道の早期復旧と生活の再建は同時に進める必要を感じています。
このたび、静岡からミニSLなどを持ち、大船渡市におじゃまいたします。わざわざですが大人10人と料金を届けたいと思っております。ごどもちを少し多くの皆さまに楽しんでいただければ幸いです。

主催:「よみがえれ三陸鉄道被災地救助 ミニSL運転実行委員会」
お問合せ: 静岡市興区黒金町55 国光静岡地本 電話 (054) 285-4426
宮古市・三陸鉄道株式会社の特典を頂いております。

2012. 4. 24

ミニSL乗車会のお知らせ

静岡 ← 釜石

2012年
4月24日(火)
場所: 平田小学校
10時~12時
運賃: 無料

みんな あつまれ!
静岡からミニSLが来るヨ!




静岡から釜石におじゃまする車両
(変更する場合があります)

○7型蒸気機関車1両、電気機関車2両、客車6両

私たちは、静岡で、公共交通の充実を求め取り組んでいる団体と、旧国鉄OBと、JRで働く現職でミニSL運転を行っている「ミニSL運転クラブ」などで実行委員会を構成し、今回の企画を実施した。東北地方の太平洋沿岸部の鉄道の被害の大きなにも鑑み、公共交通と国民の交通権を守る重要性が増す中、鉄道に関わる者としては、三鉄鉄道をはじめとした、鉄道の早期復旧と生活の再建は同時に進める必要を感じています。
このたび、静岡からミニSLなどを持ち、釜石市におじゃまいたします。わざわざですが大人10人と料金を届けたいと思っております。ごどもちを少し多くの皆さまに楽しんでいただければ幸いです。

主催:「よみがえれ三陸鉄道被災地救助 ミニSL運転実行委員会」
お問合せ: 静岡市興区黒金町55 国光静岡地本 電話 (054) 285-4426

被災地激励行動報告

山梨孝夫

4月21日7時、沼津駅北口に小原、市川、和泉、中村、山梨の5人が集合、小原の車で出発。望月、室伏は別途各自の自宅から出発して海老名SAで合流することになっている。

途中8時ころ望月から「すでに海老名SAに到着した。」との連絡があり、ほどなく小原車も海老名SAに到着した。望月車は幌馬車のようなのですぐに見つかった。室伏車は宣伝カーで看板付なのでこれもすぐ見付き、めでたく3台が合流した。

参加者全員が一堂に会したのは初めてなので、ここで打合せ・意思統一をして望月車に中村、室伏車に市川が助手兼交代要員として乗車、小原車には山梨、和泉が乗車し、小原・望月・室伏の順に隊列を組んで出発。首都高中央循環線を経由して川口から東北道に入った。中央循環線は初めてで車列が他車で分断されることがたびたびあり心配したが無事に佐野SAに到着、休憩。次の那須高原SAで昼食をとり、途中の休憩をはさみ18時に予定通り、盛岡・ホテルカーリーナに到着。

国労盛岡地方本部の齋藤委員長の出迎えを受けた。委員長は別途会議の予定があるとのことで挨拶のみで別れ、各自部屋に入って休憩後、ホテル近くの中華食堂で夕食。明朝5時30分の出発に備え早めに切り上げ、翌日朝食用のむすび、飲み物等を仕入れて各自就寝。

4月22日5時30分出発。ちょっとしたトラブルが数件あったが、予定より少し遅れて8時20分宮古小学校に到着。国労宮古分会の仲間も手伝ってくれたので、線路設置等の準備も順調に進み、10時には運転会を開始した。

開始前から並んで待っていた子供たちが大喜びで乗車しはじめ、ほっと一安心。三陸鉄道のみなさんも物資販売やグッズの配布等を行い、昼休憩をはさんで14時の終了まで、SLとELの2列車でほとんど途切れることなく運転を継続した。延べで500人は乗ったのではないかな。

後片付けも国労宮古分会の仲間の手を借り順調に終わり、宮古駅近くの分会事務所へ移動して15時30分から交流会を開始した。自己紹介の後、被災した当時の様子や現在の仕事のことなどをお聞きし、意見交換を行ったがあっという間に移動時間になってしまい、17時に宿泊先の大船渡に向かい出発した。

大船渡への途中、壊れた防波堤、基礎だけ残して跡形もない住宅の跡地、橋台だけ残して前後の築堤と橋梁が流された鉄道線路、これらを集めた瓦礫の山などが次々と現れ、いまさらながら津波の威力を見せ付けられた思いがした。

大船渡に着いたのは19時ころだったので辺りは暗く、田んぼに中のような暗く開けたところに、やっとの思いでプラザホテルを探し当てた。夕食を仕入れに、カーナビを頼りに車で出かけたが、途中、道の前方が一段低くなっている行き止まりに出会いバックした。翌朝明るくなってから確認したら、行き止まりの所は大船渡駅の駅舎の跡で、車が入っていったところは、駅の正面で改札口からホームに出た場所、一段低いところは線路だった。ホテル周辺の田んぼのようなところは商店や住宅がすべて流されてしまった跡地だった。この辺りは駅前の繁華街だったはずだ。津波の威力と被害の甚大さを改めて実感した。

4月23日、小雨模様の7時30分ホテルを出発、8時に大船渡シーパル到着。この建物も1階

部分は津波で浸水し近く取り壊すとのこと。この駐車場が運転会会場。若干の勾配があるが舗装されているので線路敷設も順調に進み、10時には準備完了。三陸鉄道さんはここにもテントを張って協賛出店してくれた。雨脚は時々強くなり急きょ用意したカッパを着ても手足はグジョグ所になってしまう。

開始直後に保育園児がバスで来てくれたが、それ以外はいにくの天候なのでお客様はチラホラ。客車にシートを掛けて待機している時間の方が多く感じ。こんな状態なのでたまに来てくれた皆さんには大サービスで何回も回った。乗車人員延べ50人程度、15時終了。後片付けをして16時30分出発。釜石のパンションに18時30分頃到着。このパンションも1階部分は被災しており、宿泊した3階も設備的にはいろいろ問題がある部屋だった。

4月24日、天気は快晴、6時30分出発。7時平田小学校到着。運転会会場予定の運動場は昨日の雨で使用不能。学校側と打ち合わせ、急きょ正門前の校舎沿いに直線を中心に一部曲線をいれ線路を敷設することにした。



平田小学校

路盤が不均等なのでゴムパットの挿入や砂利をかき寄せて入れるなどを行ったが、最後まで完全にはならず脱線が多発した。こんな状態なのでC57は降ろさないで、小原のCタンクとEL・ED60を前後に付けてプッシュプル運転をした。10時から11時45分まで全校児童200名と近所の子供連れのお母さんたち10数名が乗車した。

片付け終了後13時に平田小学校を出発、13時30分釜石で昼食。市川は所用のためここで別れ列車で帰宅。14時30分釜石発、気仙沼へ。

気仙沼への道中でも被災した線路。被災しているように見えないのにレールが撤去されている線路が見え、海岸から数キロ上流まで川を遡った津波で家や畑、道路が流された痕が見られた。

気仙沼の市街地は、平地部分の木造の家はすべてなくなり、鉄筋コンクリートの建物だけ残っている。道路は陥没していて、主要な道路は盛土して舗装はしてあるが、その他の道路と段差ができていた。宿泊したホテルは山の上にあったので津波の被害はなかったそうだが、ホテルから

見た市街地は空襲に遭った都市の写真を見ているような感じだった。

4月25日、8時ホテル出発。被害のひどい南三陸町を經由して帰る。途中の惨状は今までの状況とあまり違わなかったが、山を越えをして南三陸町に入ると一変した。三階建のビルの屋上に乗用車が乗ったままになっていた。信号のある交差点に来たが、海岸から山裾まで周囲は水の無い田んぼのような感じ、しかしよく見ると基礎だけ残した建物の跡地だ。自分たちの走っている道路も一見普通の道路のようだが、ここも盛土をして平らにし舗装したもので、幹線道路以外はぼこぼこのままになっている。SL・C58が横倒しになっているとのことなので、探してみた。たまたま車を降りて周囲を見渡したところ、瓦礫の山の隅にSLらしいものが見えた。道路から住宅の跡の空き地を横切り近づくと、確かに蒸気機関車だ。お腹を横にして正に横倒しの状態になっている。展示されていた公園から少し流されて横転したようだが、その公園が瓦礫置き場になっているため、SLも半分瓦礫に埋まっていた。この公園から数百メートルのところは志津川病院で大きな建物が廃墟となっていた。

その後、海岸線を下り仙台北ICから東北道に入り、那須高原SAで昼食。首都高速に入るまでは順調だったが、首都高速で渋滞に巻き込まれ沼津に着いたのは20時だった。遅い夕食をとって21時に解散した。

「よみがえれ三陸鉄道！被災地激励ミニSL運転会」に参加して

望月孝俊

4月21日から4泊5日で東日本復興支援の思いを込めて、被災地激励ミニSL運転会に行ってきました。車3台とスタッフ7名、そしてミニ鉄道資材一式を積んで片道800^{キロ}、3カ所の会場で開催しました。

会場は、岩手県宮古市立宮古小学校、大船渡市大船渡シーパル駐車場、釜石市立平田（へいた）小学校です。

はじめての遠い地であり体力やトラックのことも心配の面もありましたが、車の運転も交代しながら無事に行ってきました。天候も2日目に小雨が降ったりしましたが運転会は開催できました。

現地は被災後1年経過しても瓦礫などの処理に追われるのが実状ではないか、そんな印象を持ちました。破壊された三陸鉄道もほとんどがそのままの状態のように見えました。

復旧・復興へは、まだ多くの時間と支援が必要だと率直に思いました。津波で破壊された現状や多くの犠牲を考えると自然の持っている両面を否応なく突き付けられた思いです。

被災地の悲惨な現状といつも隣り合わせで学校に通い、生活している子供達に少しでも明るい、楽しいひと時を持ってもらおう・・・、三陸鉄道や被災地のより早い復興を思いながらの運転会でしたが、3会場での暖かい交流を振り返ってみますと当初の目的をほぼ達成できたのではないかと感じています。

今も、2分ほど咲いた校庭の桜に子供達の無邪気な甲高い声と笑顔が開花を促すように春風に

のって校舎にこだましていく情景が目に浮かびます。

また、盛岡地方本部の国労の仲間の支援も受けたなかでの交流会の席で地元の方が、国労の大先輩と言うべき人達がグループで来てくれたことに国労の絆の強さ、歴史を感じた・・・などと言っていました。

今回の運転会を実施するにあたり三陸鉄道、学校関係者、又カンパを寄せていただいた団体、個人のみなさんに大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。そして、数回にわたり現地との折衝にご足労いただいた皆様に感謝申し上げます私の報告とさせていただきます。



よみがえれ三陸鉄道 ミニS L 激励行動奮闘記

国労東部支部

沼津ミニS Lクラブ 小原 昭次

「遠くへ来たもんだ！」

岩手県三陸地方へのミニS L 激励行動の呼びかけを聞いた時は、いささか遠すぎて無理ではないかと思えました。今までにも東は大宮、西は名古屋まで出向いたが、今回は片道だけでも約800^{km}の移動であり、また三日連続運転で移動日も含めると5日間です。まずは休暇が取れるかである。

職場の先輩は、震災以降ボランティア活動に何回も参加をしており、「テレビだけでは被災のひどさは解からない、一度位は現地に行ってボランティア活動をするべきだ！」と言われていた事が気になっていました。多額ではないものの義援金としての金銭的な寄付はしていましたが、現地まで出向く事は考えてはいませんでした。すでにこの企画は現地での打ち合わせ、また活動費用としてのカンパ活動までにすすんでいる事を知り、職場の先輩の後押しを受けながら、なんとか有給休暇を取り参加できる事になりました。

4月21日の当日、沼津駅北口 7時に出発し海老名SAで車3台、参加者7名と合流その後は不慣れな首都高速を迷わない様に、資材を積んだ古びたトラックはフルスロットルで、やっと東北自動車道に貫けた頃には、車が少なくなったのか走行にも余裕が出てきたのか道路標識からの目が、まわりの景色に向く様になり、さくら前線を見ながらまだまだ遠い、一路盛岡へ！

高速道路は内陸部を通っている為にほとんど地震の被害やもちろん目に見えない放射能の影響は感じませんでしたが、ところどころに路面に補修したと思われる、色が変わったアスファルト舗装に気づきましたが復興優先の主要道路である為に何よりも優先して修復したのではないかと思います。また復興支援者や被災地から故郷をあきらめ、後ろ髪を引かれる思いで遠方への避難を余儀なくされた多くの方々が通過して行った道路である事を思うとなにか複雑な気持ちになりました。また被災関係者の移動の主要道路でもある東北自動車道の料金無料化はまだまだ続けるべきではないかと思われます。

盛岡は、さくらもまだまだツボミ、途中の安達太良山や岩手山などは厚い雪化粧です。移動だけの一日でしたが無事旅館に着いた時は夕方18時ごろで、腰や尻が痛く疲れもピーク、随分遠くへ来たもんだ。

「宮古で子供達が待ってるぞ！」

街中ではコンビニもあるとの事で、朝食も抜きで朝6時旅館を出発し宮古に向かうも昨日のうちに車の燃料を補充しとくべきだったがうっかり、早朝の為Gスタンドがなかなか見つからず、案の定トラックが燃料切れ、JAFへの要請となり比較的早く来てくれたものの20分以上のロス、宮古までまだ100km以上2時間は掛かりそう。予定では8時到着、10時運転開始ではあるが少し当たりが出そうである。途中国道106号沿線では残雪もありこちらの季節、春はまだまだ先の陽気であった。宮古の街の市役所や隣の銀行は海岸に近くであり二階付近まで海水につかった跡がありもちろん閉鎖されておりました。

幸いにも対向車も少なく渋滞も無く宮古の到着も10分位の遅れで到着、会場の宮古小学校には三陸鉄道の社員をはじめ市職員の人達が待ってられました。小学校の校庭は直接の被害は無いと思われましたが校舎の基礎がむき出しになっていたりひびが入っていたが、ここの学校の被害は地震のみであり津波の被害は設備には無かったものの生徒の家族には被害者もおられたとの事です。



宮古小学校

到着後、宮古のスタッフと早々準備にかかり運転開始の10時には多くの子供達が集まって本物同様のミニSLに歓声を上げておりました。中には機関車の本を持参してミニSLとを見比べている小学生もおりました。宮古のスタッフや学校の関係者の皆様に感謝するとともに、参加してくれた子供達のいっときではありますが笑顔がなによりでした。

「ひで一なー」！

15時には片付けをはじめ次の二日目の大船渡まで移動です。会場の都合で三日目の釜石市を過ぎ大船渡までの間、リアス式海岸の港町の被災の現実はまさに「ひで一なー」の驚きの言葉しか出てきませんでした。職場の先輩の「現地に行かねばひどさは解からない」の言葉がやっと理解できました。製鉄所の街、釜石市も被災から一年以上も経っているに街の灯りが少なく再建と云う言葉は遠いものと思いました。

大船渡の旅館は国道から少し離れ大船渡駅また港の近くの為、周りは更地ばかりで旅館の入り口を捜すのに四苦八苦、旅館も被災後一階のフロントを改修し入り口は反対側との事。反省会の飲み物や明日の雨合羽の買い出しも国道にまで行かざるを得ません。灯りをめざして一直線と思いきや、大船渡駅のホームまで上がってしまい行き止まり、駅の建屋が無いのでホームとはわかりませんでした。

港では常に灯りがあるものの、ここでは寂しく近くの旅館だけで仮に建物があったとしても壊れた建物には人の気配がなく灯りはついてはおりません。復興はまだまだ先と思われませんが旅館には、広島や大阪のナンバーの車もあり遠方から建設関係の人達が復興の先頭に起っているのがわかりました。



寸断された線路（三陸鉄道・盛駅付近）

「雨でもやるぞー」

夕べから雨が降り続き天気を期待しましたが残念です。しかし折角遠路沼津からきて中止に出来ません。子供達も待っているぞーと会場には三陸鉄道のスタッフがすでに、テントを張りさらにマスコットの着ぐるみも待っていました。予定の運転時刻にはミニSLの蒸気も最高潮でした

が雨はあいかわらず止みません。雨の為なのか？ここまでの交通手段が無いのか？お客さんの姿が少ないですが、マイクロバスで大船渡保育園児が来てくれました。また「子供のおじいさんが国鉄時代にSLを運転していたのでとても懐かしい」とのお母さんも喜んでくれておりました。「前日の新聞を見て来ました。」「園児の友達とお母さんをこれから呼びたいけどそれまで待ってくれますか？」など雨にもかかわらず参加して下さいました皆さんに、「ありがとう！」そして「復興がんばろう！」皮肉にも運転を終了する頃には雨も止んでました。 ざんねん
次は釜石市へ



さんてつくんも参加してくれました

「計画停電中か？」

旅館には着いたけど三階建ての二階までは被災の跡がはっきり残っている。旅館の前の海側には5M位の堤防だと思われるコンクリート壁があるがこれは何の役にもたたなかったと思われる。部屋はこの三階ではあるが、トイレ、風呂、食堂はとなりの建屋になり、往来も雨の中必ず外に出なければならないので誠に不便である。部屋の電気は隣の建屋からリールコードで引いてあり反省会時(?)に突然照明が消えてしまい「計画停電中か？」常設の非常灯の使用を余儀なくされる始末です。もちろん夜中の用足しは照明も無い階段を下り、隣りまでは行かずに外で。私達以外のお客さんは復興企業の建設関係の人達も多く見かけました。

「グラウンドはだめ、ならば玄関で」

三日目は釜石市の平田(へいた)小学校、前日の雨がかなり強かったので会場のコンディションが心配されました、案の定グラウンドを使用できる状態ではなく中止にする事もできません。学校では、午後に家庭訪問を計画しており授業の一環で試乗会に参加するとの事で午後にする事も出来ません。

ならば玄関広場を車の乗り入れは遠慮願って生徒の為に、強行実施、設営は授業中であり私達も気を使っただけの作業ではあったが、子供達も気になってこちらをちらちら、試乗会が始まれば大

騒ぎミニSLを追い駆けたり、乗っている友達とのハイタッチ等、先生も生徒も大はしゃぎ。2時間位の運転であったが全校生徒が試乗出来たようでした。

平田小学校は震災当日、生徒は帰宅させなかったので一人の犠牲者も出さなかったとの事でした。帰り際には副校長から「遠方の静岡から大変でした、またこんな年輩の皆さんの頑張っている姿を見て自分たちももっと頑張らなければと励まされた」と言われていた事がこの企画の成功を意味していると思いました。

「がれきの山」

平田小学校から気仙沼までは津波の被害が最も大きかった陸前海岸国道45号線を南進したが、まさにどの港町も壊滅であり陸前高田市では三階の屋根に乗用車が載ったままでまた国道横には何千トンか解からないがかなり大きな貨物船が居座っている。一本だけ残った復興の象徴の松も葉は茶色くなっており、復興のシンボルとして残す努力はしているとは聞くが難しいそうである。道路の海側はがれきの山でありこれが片付かねば復興の手を着け様がないと思われる。また山側は数キロ先までまさに更地であり田んぼかと思ったが陥没のせいか水が履けないからその様に見えた様だ。このような処の国道だから舗装はしてあるものの盛土の凹凸はかなりあるが復興には欠かせない主要道路である事はまちがいない。鉄道のレールは復興作業の妨げになるのか平地は殆どが撤去されているので盛土しか解からないが、線路を復活させるのも街造りが具体化しない限りは無理だと思うのは私だけだろうか？東京都及び静岡県から、がれきの焼却がはじめられたが、現地のがれきの山を見ると「復興はがれきの処理からだ」と痛切に思います。

三日間の疲れを癒す為に気仙沼港を見下ろせる高台の旅館に泊まりましたが、ここでも驚いたのが夜になると港はおろか街は灯りが暗く対岸の街には街灯も点灯していません。三陸の大きな港町が一年以上経ってもこの現実です。復興は簡単ではなく多額の費用と多くの時間が掛かりそうです。



気仙沼の街

翌日にはいよいよ沼津への帰路となりますが南三陸町の街にも寄って被災の現実を見ておこうと国道45号線を南下、港町に着く度に「うわー、ここもひどい」と、盛土となって津波を防ぐ

はずであった鉄道線路はレールに枕木が着いているものの、道床の砂利は流されてしまっており、津波が私達の想像をはるかに超えた大きなものである事が解かりました。がれきは撤去されていますが、がれき置き場には、とてつもない程の量のがれきが集められています。さらにはナンバー付きの壊れた乗用車やバスが数百台も積み重ねられていました。高台に向かう道路には震災後に設置されたと思われる（これより下津波注意）の道路標識がやたら目につきました。

南三陸町では、TVでも中継されていた志津川病院の廃墟がそのまま国道横に残っており五階建ての四階までは窓ガラスも割れて津波の痕跡がはっきりと解かりました。志津川病院や向かいの結婚式場の屋上から助けを求めヘリコプターに手を振る被災者の映像が脳裏に浮かび、自然と手を合わせ犠牲者の冥福を祈ったのは私だけではありませんでした。

志津川病院から少し海側に離れた公園は、400Mのトラックもあった大変広いスポーツ公園でありC58型の蒸気機関車も展示されてあったが、いまは多くのがれきが集められており蒸気機関車もがれきと共に横たわっていました。後ろを振り向けば川向うの鉄骨のみの被災建物には「よみがえれ、ふんばれ南三陸町」と大きな看板が掲げられているのが印象的でした。

3. 11の震災は、あまりにも大きな津波の為、目の前の家族をそして住み慣れた家を奪われて行く光景を、TVで何回も報道しておりましたが、私もTV中継を「悪夢を見ているのか」と思いつつ、「残酷だが今起きている現実である」と、目を覆うような被災中継に見入ってしまいました。志津川病院の屋上から助けを求める被災者の姿や、雪のちらつく避難地の子供やお年寄りの悲惨な姿が今でも目に浮かびます。

地震と、津波のダブルパンチは想像を絶する大きな被害を生み、尊い命と多くの財産を失った被災された皆様に、心からお見舞いをすると共に、今まで何も行動ができなかったが、現地での今回の激励行動は何か役に立ったのかなと疑心暗鬼をしながらも少し自己満足をしています。

「原発ゼロを望みたい！」

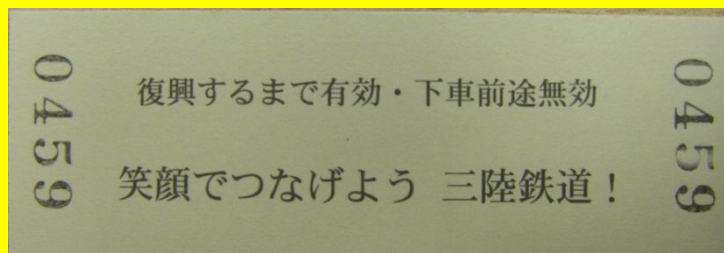
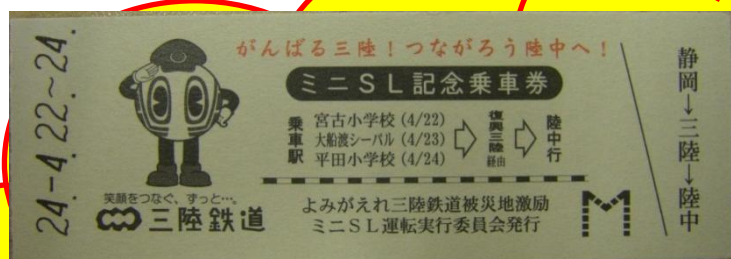
しかし、今回の三陸地方の被災は地震と津波ですが、福島ではさらに原発の放射能漏れのトリプルパンチです。目に見えぬ放射能の恐怖は広範囲にわたり、土地は住めなく使用も出来ません。人類が造ったものでありながら人類が制御出来ない原発だけに、政府が震災前まで言っていた「安全でクリーンな発電」では全くありません。また使用済み核燃料の再処理も失敗、廃棄施設もすでに満杯に近いとの事、地下300m以下なら安全と云うが地震の多い日本では危険である事は誰でも知っている。浜岡原発の3・4号機の建設反対のデモ行進に行った事がありました。何十年も前の事であったので忘れていましたが、当時「原発に反対する奴は非国民だ！、国賊だ！」等とデモ隊に罵声を浴びせられた事を思い出しました。活断層の真上にあり危険である事は当時から言われているが、使用済み核燃料のプルトニウムの危険性また、放射能の恐ろしさを考えると、原発ゼロを私は望みたい。

今回の行動に対し多大な御理解とカンパの御協力を戴きまして有難う御座いました。お陰様で貴重な経験をさせて戴きました。機会があれば再び行ってみたいと思います。

全く文才の無い私にレポートを書く様に云われたものですから、伝えたい事が十分に伝えられない自分に腹立たしく思います。まとまりの無い報告また文章的にもおかしな物になってしまいましたが、お礼方々報告とさせて戴きます。

乱筆失礼

ミニSL乗車記念きっぷを配布しました！



よみがえれ三陸鉄道！被災地激励ミニSL運転会に参加して

和泉雅夫

東日本大震災から1年。「何かしなければ」と思いながら、一年が過ぎてしまった。4月21日から4泊5日で「よみがえれ三陸鉄道！被災地激励ミニSL運転会」のイベントが開催されると聞き、少しでもお役に立てればと思い参加しました。

任務は、自動車運転及びイベント会場の線路敷設・撤去、乗車券配布、改札等です。

22日、宮古小学校に予定より遅れて到着すると、協力をいただく国労盛岡地本の仲間、三陸鉄道社員、宮古市職員のみなさんが待っていました。直ちに荷を降ろし、線路敷設を盛岡地本の仲間と一緒にしない、無事定時刻にイベントを開催することができた。子供連れの家族も多数訪れました。

表面に「がんばる三陸・つながろう陸中・ミニSL記念乗車券」裏面に「笑顔でつなげよう三陸鉄道！」と書かれた乗車券を「記念にお持ち帰りください」と言いながら一人ひとりに配布、ミニSLが走り出すと歓声が上がっていました。三陸鉄道社員のみなさんも店を出し、三陸鉄道独自に作られた多種多様な商品を販売し、イベントを盛り上げていました。三陸鉄道の復旧状況を尋ねると「久慈から田野畑までは復旧したが田野畑から宮古は早くて二年はかかる」と話され、「釜石から盛は復旧の目途さえ立っていない」と……。イベント終了後、皆さんと記念写真を撮り会場を後にしました。その後、地元の国労盛岡の仲間の皆さんと宮古分会事務所で交流会を

持ち、協力していただいたお礼、震災当日の状況、不通区間（山田線、宮古～釜石間）（大船渡線、盛～気仙沼間）の現状が報告された。短い時間でしたが有意義な交流ができました。海岸線を通る国道45号線で次の目的地大船渡に向かいました。高台を除き家はすべて破壊されていました。JR山田線も破壊されたままの状態、海に近いところでは線路がどこにあるのかもわかりませんでした。陸中山田町では、集められた瓦礫が山積みになっており、なぜ、広域処理が進まないのかと考えながら目的地へ。



街のあちらきちらに瓦礫の山が！

二日目は、朝から小雨でした。イベント会場の大船渡シーパル駐車場に向かいました。駐車場には水溜りもありましたが開催することとなりました。地元関係者が「このシーパルの建物も明日から取り壊し、前にある体育館も解体する」と。昨日に続き、地元大船渡の三陸鉄道社員の皆さんがイベントを盛り上げるためにマスコット三鉄君の着ぐるみを持って参加。小雨の中イベントに来てくれる参加者がいるのか心配しましたが、幼稚園児を乗せたマイクロバスが2台到着しほっとした。11時過ぎると子供連れの母親が乗用車で随時来られました。園児たちは、煙の出るミニSLにびっくりした様子で、汽笛を鳴らして走り出すと「すごい」と歓声があがりました。幼い子供たちは、母親と一緒に乗車したり、三鉄君と戯れたり、楽しく過ごしていました。ミニSLを動かすたびに二歳ぐらいの子供と一緒に乗車する母親がいて、代表の室伏さんが話しかけると「父は、昔国鉄職員でSLの運転士をしていました。その後、三陸鉄道にも在籍していました。私もJR東日本の採用試験を受けたことも・・・」「子供さんは将来鉄道員ですね」と尋ねると笑っていました。イベントの最後には、三陸鉄道・釜石～盛間の復旧作業が早く始まるよう、ミニSLに三鉄君を乗せ会場を一周し、協力をいただいた三陸鉄道社員にお礼を言い会場を後にした。

三日目は、高台にある釜石市立平田小学校に向かいました。到着すると、教頭先生たちの出迎えを受けた。昨日の雨でグラウンドがぬかるみ使用できず、正門と校舎の間で走らせることになったため、場所が狭く一周する線路が敷設できず折り返し運転となった。学校では、児童の全てが

乗車できるよう授業内容を変更し取り組んで頂きました。準備が整いクラスごとに乗車。地盤が不安定なためミニSLは脱線も・・・、電気機関車は上り坂で立ち往生し後押しをする場面も・・・、悪戦苦闘の連続でしたが、すべての児童を乗せることができました。仮設住宅に生まれている子供連れの母親も来られ、校庭は一時歓声と笑い声が響き渡りました。

震災から一年が経ち被災地の状況は、国道45号線を通りましたが陸中山田・釜石・大船渡・陸前高田・気仙沼・南三陸町での集められた瓦礫が山積みでした。瓦礫の存在は復興の大きな障害になっている。静岡県では一部の自治体で受け入れが始まりましたが、県外の多くの自治体が受け入れを拒否しています。放射能汚染の不安が原因だと思いますが安全が確保されれば受け入れることが必要だと私は思います。受け入れの運動を・・・。

鉄道の復興については、三陸鉄道は当然ですがJR東日本にも復興資金を投入するよう国に働きかけていく必要があると思います。(JR東日本は将来会社の損益を考えているかも?)

平田小学校では、「津波が正門まで押し寄せましたが、児童には幸い犠牲がなく・・・」と教頭先生から聞くことができました。この地域の悲惨状況を見ると、児童の中には家族、家を失い不安定な生活をしながら学校に通っている児童もいるのではないかと思います。この催しを、授業として取り組んでいたいただいた学校関係者の姿勢に、児童を思う気持ちが伝わってきました。児童からも「校長先生も一緒に乗ろうよ」と誘う言葉が聞かれました。また、SLが脱線したときに心配して駆けつけ「大丈夫」と優しい声も掛けてもらいました。この思いやりの気持ちが今も心に残っています。

この企画に初めから関わり三回被災地に足を運んだ皆さんに感謝を申し上げ、引き続き国労盛岡地本の仲間、三陸鉄道社員、学校関係者の交流を期待し報告とします。

ミニSL運転会報告

国労静岡支部 中村 正

4月22日宮古、23日大船渡、24日釜石の三ヶ所で開催された、被災地支援・「よみがえれ三陸鉄道！被災地激励 ミニSL運転実行委員会」(国労静岡地本参加)主催のミニSL運転会に、国労静岡地本と新幹線地本からOBを含め7名が参加しました。

宮古市の宮古小学校で開催された運転会については、事前打合せを行う中で市の広報に記事を載せていただく事もできたこと、日曜日で好天にも恵まれたことなど、小さい子供からお年寄りまで多くの人が集まり大成功を納めました。子供達を写真に収めるなど大人も楽しんでいただけたと思います。また、盛岡支部の執行委員と宮古分会から5名の組合員が、お手伝い頂き、準備、片付けも短時間に終わり大変助かりました。

大船渡で開催された運転会は、あいにくの雨にも関わらず、市内の保育園児や小さい子供連れの家族が集まりました。南リアス線運行部をはじめ、三鉄盛駅(列車が運休し営業不可)の待合室を地域や旅行者のために開放し「ふれあい待合室」を開設しているNPOの方々にも協力をいただきました。

最後の釜石市平田（へいた）小学校では、前日の雨の影響で、グラウンドは水浸し、急きょ、学校の玄関脇を利用して開催しました。桜の時期と重なり、SLとの風景はいいもので、子供たちの楽しそうな笑顔が何よりも印象的でした。校長先生をはじめ多くの教職員の方に機材の積み下ろし、撤収をお手伝いも頂きました。

「仮設に暮らす友達から聞いて来ました。生きる希望が湧いて来ました。」とっていました。このように 3 会場で開催された運転会は、子供からお年寄りまで多くの人に夢と生きる希望を与え大成功を納めました。そういう意味でも支援に、一役買った気がします。

もう一つの目的である「三陸鉄道早期復旧」は、鉄道としての復旧は確約されたが、数千億ものお金がかかること、駅周辺の集落は全て津波に押し流され一軒も無いことを考えた時、復旧まで道のりは遠いと感じました。

しかし、宮古、大船渡の会場では、三鉄の社員が物資販売を行い周辺住民に復旧支援を呼びかけたり、三陸に滞在中に三鉄沿線の自治体の長が集まり「あくまでも鉄道で早期復旧」と決議する等、地元の熱意や鉄道の復旧は人々に夢と希望を与え復興の礎になる！と言う事を考える時、私たちの出来る事を一つ一つ実行し、三陸鉄道の早期復旧をめざし支援・連帯をして行きたいと思えます。

一方、協力を依頼し快く引き受けて頂いた盛岡地本の組合員と、宮古で、運転会終了後懇親会を行い、震災当時の話しなどが出て、近い将来必ず起こると言う東海沖地震に対する教訓を得ました。参考になったのが、NTT、携帯電話が不通になり、沿線電話で、職場に連絡した。沿線電話も連絡手段になると感じました。また 大船渡では、盛駅と気仙沼駅の国労組合員が激励に駆けつけくれました。感謝を申し上げます。

しかし、宮古から大船渡に向かう途中の海岸線の港町を見て津波の恐ろしさを、まざまざ見せつけられました。どの町もガレキは片付けられていますが、基礎を残しただけで、壊滅状態です！三陸に行く前まではテレビに出てくる被災者を見て「何とかなるのではないのか」と思っていました。しかし、あれを見れば、とても・・・？大船渡から陸前高田市を通って気仙沼、そして南三陸町を通って仙台に、出ましたが、これまた全滅、ガレキの山、津波に押し流されて来た船が、そのまま放置された現状！テレビで見るのとは大違いです！一つ言える事は、私たち被災地を見て来た人が、周りの人に現状を訴える事！多くの人が、被災地を訪問して現状を直視する事！が必要です！

最後に、私たちのSL運転会に対し多大な支援をいただき誠にありがとうございます。

カンパ要請チラシ

「三陸鉄道全線復旧・被災地支援のミニSL運転会」開催に向けたカンパのお願い

2011年3月11日、未曾有の大地震が発生し、これにより三陸海岸を中心に最大39.8%の大津波が繰り返し押し寄せ、多くの市町村が被災し、死者・行方不明者は約2万人を数え、被災者は40万人に及んでいます。
発生から1年になります。被災地の生活インフラの早期復旧、特に寸断された三陸鉄道の全線完全復旧は早急な課題です。
このような状況の中、三陸鉄道の全線復旧をめざし、被災者のみなさんを激励するミニSL運転会の開催を下記の通り計画しました。

開催日 2012年4月22・23・24日(出発21日・帰着25日)
会場 4月22日宮古市
4月23日大船渡市
4月24日釜石市
運賃 無料(硬券記念乗車券) <作成依頼中>
機関車 C57型蒸気機関車・電気機関車・客車6両

カンパのお願いします!



★静岡から機材・スタッフを含めトラック・自動車の2台で現地に向かいます。また、4日5日の日程を組みました。ガソリン代・宿泊費等の経費が大変不足しております。
出費の掛かる時期ではありますが、趣旨をご理解いただき、この取組みを成功させるためにも、カンパのお願いをさせていただきます。
よろしくお願い申し上げます。
よみがえれ三陸鉄道!ミニSL運転被災地激励実行委員会 代表 室伏雄二

【主催】よみがえれ三陸鉄道!ミニSL運転被災地激励実行委員会
【賛同団体】国労静岡地方本部・静岡県評・三島田方労組連・沼津ミニSLクラブ
お問合せ先: 静岡市葵区黒金町55 国労静岡地方本部 TEL054-285-4426・FAX054-285-6835

<カンパを頂いた団体・個人の皆さま>

「山大園」お茶店 様
静岡県富士市中央町2-5-18
TEL: (0545) 52-2540

革新自動車株式会社 様
静岡県函南町大土肥95-1
TEL: (055) 978-3921

静岡県評幹事会一同様・静岡交通ビル様・富士市新通り町公園SL運転会一同様・国鉄労働組合本部様・国鉄労働組合東海本部様・国鉄労働組合盛岡地方本部様・国鉄労働組合東部支部・国鉄労働組合浜松支部・森田豊次様・堀内慶一様・山崎順子様

地元でも宣伝がされました



「森・川・海」とひとが共生する安らぎのまち

宮古市

②サイトマップ

トップページ | 観光・イベント | 市民の窓口 | 健康/福祉 | 産業/労働 | 教育/文化 | 組織別の案内

ホーム > 観光・イベント > 地域イベント > 地域イベント情報(月ごと)

最終更新日:2012年04月20日
総務企画部企画課

■ 地域イベント情報/2012年4月

事前に参加の申し込みが必要なイベントもあります。参加のお申し込み・お問い合わせは市担当課、各機関まで。

行事名	期日	時間	場所	問い合わせ	備考
サケ稚魚壮行会(津軽石川)	12日(木)	10:00	津軽石川河川敷会場	市商業観光課(TEL0193-68-9091)	サケ稚魚を放流(自由参加)
サケ稚魚壮行会(閉伊川)	13日(金)	10:00	閉伊川スポーツ公園	市商業観光課(TEL0193-68-9091)	サケ稚魚を放流(自由参加)
3・11メモリアルコンサート	15日(日)	12:00~17:00	宮古駅前広場	宮古音響・新川(TEL090-5184-4291)	シンガーソングライター、フォークバンド※当日飛び入り可
ミニSL乗車会	22日(日)	10:00~14:00	宮古小学校	よみがえれ三陸鉄道被災地激励ミニSL運転実行委員会(TEL054-285-4426)	ミニSL乗車、三鉄くん握手会、先着100人に記念品 ※雨天中止
アニメ映画会	4月27日(金)~5月6日(日)	午前・午後各1回	県立水産科学館	県立水産科学館(TEL0193-63-5353)	無料
浄土ヶ浜まつり	4月29日(日)~30日(月)、5月3日(木)~6日(日)	9:00~	砥石浜(といしはま、奥浄土ヶ浜)バス停より徒歩1分	宮古観光協会(TEL0193-62-3534)	日により開始時間、開催されるイベントが異なりますので、詳細はこちら(宮古観光協会ホームページ)をご覧ください

若手県観光ポータルサイト | マイページ新規会員登録 | ログイン | RSS

いわての旅 Have a nice trip!

日本語 | English | 簡体中文 | 繁体中文 | 한국어

キーワード検索

モデルコース | 観光スポット | 食とおみやげ | 予約 | イベント | 温泉 | アクセス

さんりく観光情報 東日本大震災津波の影響で営業を停止していた施設等の再開情報や、いわて三陸の元気な観光最新情報をお届けします!

ミニSL乗車会

2012.04.12

4月23日(月)シーパル大船渡の駐車場でミニSL乗車会が行われます!

時間は10時~15時まで

ミニSLの運賃は無料ですよ(*^_^*)

三鉄グッズの販売やその他のお店も出店しますので

ぜひお越しください♪

2012年4月22日（日）

宮古市立宮古小学校での運転会



手書きの看板も静岡から持参しました。



快調に走行中！



人気の的はやはりSLだ！



運転士は「国鉄時代」の制服で！

2012年4月23日（月）

大船渡シーパル駐車で運転会



あいにくの雨模様です



さんてつくんもミニSLに乗った？



来場者が少なくても行うぞ！

2012年4月24日（火）

釜石市立平田小学校での運転会



平田小学校の子供たちがお出迎えしてくれました。



近所の皆さんも乗ってくれました。



グラウンドがぬかるみ玄関前になったので周回コースにならなかった。
バック走行になってしまいました。

地元でも報道されました

ミニSL:復旧の願い乗せ、力強い汽笛響く――大船渡／岩手

三陸鉄道の南リアス線とJR大船渡線の盛（さかり）駅に近い大船渡市盛町で23日、ミニSLの乗車会があった。震災の影響で運休となっている両線の早期復旧を願って、小さいながらも力強い汽笛を響かせた。

旧国鉄職員や現役のJR社員で作る静岡県の愛好家グループが主催。SLはC57型で、実物の8・5分の1大。子どもたちを乗せて1周約120メートルの鉄道を約1分で走った。

幼稚園から直行したという木戸協啓ちゃん（5）、康君（3）の姉弟は「もっと乗りたいよ」とせがみ、小雨の中を楽しそうに手を振っていた。

南リアス線の盛-吉浜（同市三陸町）間は来春に復旧の予定だが、JR大船渡線の宮城県気仙沼-大船渡間の再開計画は未定という。【根本太一】

毎日新聞 2012年04月24日 地方版

大船渡で三鉄応援「ミニSL試乗会」―早期復旧を後押し／岩手

大船渡の「シーパル大船渡」（大船渡市中道下）で4月23日、三陸鉄道を応援するミニSL試乗会が行われた。主催は「よみがえれ三陸鉄道被災地激励ミニSL運転実行委員会」（静岡市黒金町）。（三陸経済新聞）

会場には、市内の保育園児などが訪れ、蒸気機関車と電気機関車に乗車し、歓声を上げた。

同実行委員会では、同鉄道の早期復旧が生活再建を後押しするとして、静岡県を中心に全国で震災の風化防止と被災した子どものためのイベントを行っている。今回の岩手入りでは、宮古市と釜石市でもイベントを開いた。

三陸鉄道の南リアス線は全線が運転を停止しているが、来年4月に大船渡市盛駅から吉浜駅間が復旧予定。現在は調査・測量段階で、6月から復旧工事が始まる。全線開通は2014年を予定。

南リアス線運行部の吉田哲さんは「交通弱者の足の確保が大切で、それにはバスと鉄道、両方が必要。公共鉄道の責任として早期復旧を目指している」と話す。

みんなの経済新聞ネットワーク 4月26日(木)

津波で流されたSL

(ミニSLではありません展示されていた本物のSLです)



南三陸町：松原公園

三陸縦貫鉄道の復興に向けて

市川 寿

<三陸鉄道迅速な復旧>

避難所で多くの人々が余震におびえるなか、早くも被災から5日後には部分復旧し、地域復興・希望のシンボルとして「復興支援列車」を走らせ、地域の人々や被災者と多くの国民を励ました三陸鉄道の復旧。

<全線復旧を目指して>

早くも昨年7月の株主総会では国の全面支援を求め、2014年に三陸鉄道全線運転再開を目指すことを決めました。国も全面支援に向け、昨年11月には三陸鉄道復興鉄道建設所（久慈市・北リアス線担当）、今年4月には三陸鉄道復興南鉄道建設所（釜石市・南リアス線担当）を開所し、本格的な復旧作業に向けた第一歩が始まるなど、槌音高く工事は急ピッチで進み被災から三年後の2014年4月1日の全線復旧を目指しています。（今年6月13日には、北リアス線の全線復旧に向け大きな被害を受けた島越駅近くで起工式が行われました）

○三陸鉄道の運転計画

*北リアス線

久慈⇄田野畑（運転再開） 田野畑⇄小本（2014年4月運転再開見込み）

小本⇄宮古（運転再開）

*南リアス線

盛⇄吉浜（2013年4月運転再開見込み） 吉浜⇄釜石（2014年4月運転再開見込み）

<JR東日本・BRT（バス）での復旧>

一方、JR東日本は復旧には1000億円規模の経費が掛かり、また都市計画で津波被害を避けるため、高台移転を望む自治体もあり、移転先の確保や移転に伴う経費負担など、国の方針が決まらず線路の移設先の具体化など明らかにならない中、地元から要望の強い鉄道での復旧から、BRT（バス高速輸送システム）による復旧計画を策定し、気仙沼線の一部で運転を開始した。経費負担の在り方など工夫した鉄道での復旧が急がれます。

<三陸沿線の復旧を目指して>

三陸縦貫鉄道として、三陸沿線を走る鉄道は、生活路線としてまた観光・漁業・水産加工業などにはなくてはならない鉄道です。被災以降全国から寄せられる復興に向けた支援が数々ありますが、三陸鉄道が全面復旧しても、三陸地域のJR鉄道網の寸断によりネットワークの破壊、少子高齢化とモータリゼーションなどで減り続ける乗客の回復など課題は多く、三陸沿線を巡る今後の鉄道の帰趨は、地元の人々の公共鉄道に対する想いと鉄道の利用促進、国の政策として省エネ・環境問題として、また、いつでもどこでも誰もが安心して利用できる国民の交通権を保障する試金石ともなっています。



津波で1階部分の被害に

静岡から伺ったスタッフ

氏名	経歴等
望月 孝俊	OB 元国労沼津（現東部支部）委員長 沼津SLクラブ責任者
山梨 孝夫	OB 元国労静岡地本委員長
市川 寿	OB 元県評事務局長 よみがえれ国鉄静岡県民の会 事務局長
小原 昭次	元国労静岡地本執行委員 国労静岡地本 沼津運輸区分会
和泉 雅夫	国労静岡地本 富士運輸区分会 車掌
室伏 雄二	静岡県評副議長・三島田方労組連議長 国労新幹線地本 三島車両所分会
中村 正	国労静岡地本 静岡支部副委員長 焼津駅

企画・調整

植田 誠	国労静岡地本 書記長
------	------------

<ご協力いただいた皆さま>

宮古市総務企画部企画課（西村泰弘様）・宮古市教育委員会（竹田真人様）・三陸鉄道
総務部総務課広報担当（後川正裕様）・三陸鉄道南リアス線運行部（吉田 哲様）・三
陸鉄道物産担当（菊池弘充様）・釜石市市民生活部市民課市民生活課（二本松史敏様・
大瀧忠和様）・三陸鉄道盛駅ふれあい待合室マネージャー（中村 仁様）・釜石市立平
田小学校校長（太田 忠様・教職員様）・自治労宮古市職員労組・国鉄労働組合盛岡
地方本部・国鉄労働組合宮古地域分会・静岡、宮古、大船渡、釜石の皆さま

三陸鉄道株式会社

総務部物産担当課長補佐 菊池 弘充 様 から

平成24年6月19日

拝啓、時下ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。

さて、過日の「被災地支援のミニSL運転会」について遠くからミニSLの運転乗車を通して、
宮古の子供たちを激励に来ていただきありがとうございました。

私どもも、ミニSLの迫りに圧倒されながらも、宮古の子供たちの笑顔に励まされ、元気をい
ただきました。

震災時は先が見えず、将来への不安ばかりでございましたが、全国からのご支援、励ましの声
により少しずつではありますが前に進むように努力しているところでございます。

時間は掛りますが、街の復興、活性化、住民の通勤通学などの足の確保には鉄道が重要である
との認識のもと絆を大事にしながら頑張っていきたいと考えております。

弊社の復旧工事も全線で今月より本格的に始まりました。

来年の4月には南リアス線の一部で運転を再開する予定ですし、再来年の4月には南北リアス
線全線で運転再開を予定しており、運転再開を通して三陸地域の復興のシンボルになり、地域の
復興をけん引していきたいと思っております。

これからも、ご支援ご協力をよろしくお願い申しあげお礼のご挨拶とさせていただきます。

敬具

三陸鉄道株式会社

南リアス線運行部 運行部長心得 吉田 哲 様 から

平成24年6月20日

謹啓 初夏の候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。この度は「被災地支援のミニSL運転会」を開催して頂きまして、誠にありがとうございました。

4月23日、シーパル大船渡駐車場に於いて開催されました「ミニSL運転会」には、雨天でしかも肌寒い中、大船渡保育園と海の星幼稚園の園児、そして一般の子供達が大勢集まってくれました。普段は、なかなか見ることも乗車することもできないミニSLに乗車することが出来て、子供たちは大喜びだったと大船渡保育園の園長先生も話しておりました。また、スクールバスで3往復ぐらいしてより多くの園児を乗せたかったのですが、園内で風邪が流行しており肌寒さもあって残念ながら年長組だけの参加となりましたので、是非また開催して下さいとのことでした。

こちら大船渡では、子供達の遊ぶ場所、用具、施設等がまだまだ復旧しておらず、外で元気に遊ぶ子供達の姿を見ることが少ないのが現状です。また、JR及び三陸鉄道が運休状態でありますので、今回のミニSL運転会のような鉄道関連のイベントは、子供達にとって非常に有意義な企画であったと思います。そして、家族一緒に楽しめるイベントであったので、復興に向けて日々頑張っている大人達にとっても、安らぎの機会となったのではないのでしょうか。

今後も、このようなイベントを通じて地域間のつながり・絆というものが構築され、お互いの交流が深められるように三陸鉄道は協力していきたいと考えております。

三陸鉄道南リアス線は、平成25年4月の盛～吉浜間運転再開、平成26年4月の南リアス線全線運転再開を目指して、災害復旧工事が着工となりました。全国の皆様方からの格別のご支援、ご厚情を賜り誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。「地域の生活路線として、住民の足を確保すること」そして「観光路線として全国各地からおいでいただき、地域の産業復興、活性化に寄与すること」が三陸鉄道の使命でありますので、社員一丸となって再建に向け取り組んで参ります。

この度の「よみがえれ三陸鉄道！被災地激励ミニSL実行委員会」様また「国鉄労働組合静岡地方本部」様、そして関係者の皆様方には心より感謝と御礼を申し上げます。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。

謹言

NPO法人夢ネット大船渡

三陸鉄道盛駅舎活用事業 三陸鉄道盛駅ふれあい待合室 高木 馨 様から

「三陸鉄道全線復旧・被災支援のミニSL運転会」の感想

拝啓 時下ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。

「ミニSL運転会」の率直なコメントということで、実際にシーパル大船渡の会場に行き、乗車

しました私の感想と、ブログでその様子をご紹介しておりましたので、その感想と一緒に送りたいと思います。

「ミニSLに乗車することができると思うと、心が弾みました。当日は朝から雨が降り、この天気でも「ミニSL運転会」が行われるのかと心配しておりました。午後になって雨がやんだことで、会場に行ってみることにしました。近づくにつれSLの音が大きくなって聞こえ、気持ちが高揚した記憶であります。会場に着き、自転車を止めました。

線路が駐車場いっぱいには設置されていて、子供たちが乗ったSLが走っている姿を拝見し、楽しんでる様子を見て嬉しくなりました。

子供たちは何度も乗車を繰り返し、SLが蒸気を上げて勢いよく走り抜ける姿は、とてもかっこよかったです。SLの蒸気はミニとはいえども迫力があり、見惚れてしまうほどでした。

また、ミニSLに子供たちと一緒に乗車しました。最初はゆるやかに走り出したと思えば徐々に加速し始め、徐々に列車に乗車した感覚を味わいました。その乗り心地はとても懐かしく、気持ちよかったです。SLの煙を感じながら線路を一周し、出発点に戻ってきました。鉄道を走る列車の姿、感覚、本当に嬉しかったです。

子供から大人まで楽しめた「ミニSL運転会」と感じましたし、ミニSLは興奮するほど素敵な存在で、機会があれば再び乗車したいと強く感じました。」

敬具

国鉄労働組合 宮古地域分会ご一同 様から

2012年6月26日

「三陸鉄道全線復旧・被災支援のミニSL運転会」(宮古小学校開催)

もう春なのに、当日は肌寒くて、静岡の皆さん体調崩されるのではと心配しておりました。率直に申しまして、被災地の住民間では、お互い遠慮もあるのか、「励ます」「支援する」等、どういった行動をとるべきか迷っている面もありました。今回、こういった催しを企画していただき、参加できたことに心から感謝いたします。準備、運転、片付け、一連の作業が一人ではできない。仲間の協力と信頼、固い絆があっはじめて、ミニSLの運行が可能になることを学ばせて頂きました。また、本当に仲が良くて羨ましく思いました。皆様の暖かい支援を受けて、子供達、お母さん、お父さんの笑顔で会場全体が溢れていました。そして、私たちにもSL運転という貴重な体験をさせていただきました。自分自身も、自然と笑みがこぼれてしまいました。参加した他の仲間も、とても楽しい一日だったと申しております。狭い組合事務所での交流会で、たいしたおもてなしもできず、申し訳ございませんでした。でも、皆さんとうちとけて、意見交換もでき有意義な会だったと思います。我々、被災地域では、一日も早い復興とともに、ローカル線の未来がどうなっていくか危惧されています。宮古地域分会に集う仲間は少数ではありますが、前を向いて、精一杯運動を取り組んでまいります。皆様の、益々のご健勝をお祈り申し上げ、簡単ではありますがお礼の挨拶とさせていただきます。

お忙しい中ご寄稿頂きましたことに感謝申し上げます。



盛駅は「ふれあい待合室」として旅人・地域の皆さん等で賑っています。



さんてつくん
頑張れー!



宮古に参加したスタッフ

(宮古市役所職員・三陸鉄道社員・国労盛岡地方本部・静岡から参加者)

運転会の様子は、ホームページでも紹介されています。

[三陸鉄道盛駅 ふれあい待合室: ミニ SL 乗車会](#)で検索してください。

2012年8月31日発行

『よみがえれ三陸鉄道!被災地激励 ミニSL運転実行委員会』

【協賛団体】

国鉄労働組合静岡地方本部／静岡県労働組合評議会／三島・田方労働組合連絡会議
沼津ミニSLクラブ／よみがえれ国鉄静岡県民の会

問合せ先: 静岡市葵区黒金町 55 国労静岡地本 電話(054)285-4426